



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
           益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
           (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
                   Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「葛原清香夫人」  
 この三月下旬、教会の牧師室でのこと、椅子の後ろの書棚にある古い聖書を取ろうとした時だった、聖書の下にあった手紙がフロアに落ちた。拾ってみると、3セントの切手が貼ってあり、一九三九年に葛原定市牧師に宛てた吉原武一兄からのものであった。吉原兄はロサンゼルス教会の路傍伝道で最初に救われた人だと聞く。その内容は葛原師の奥様であった清香夫人の一周忌に師から送られた記念誌に関するお礼で、実に達筆で心からの慰めを祈る手紙であった。そこで改めて葛原夫人の記念誌『清香』を手にとつて親しく読んでみた。  
 清香夫人は明治二〇年(一八八八年)に熊本で生まれた。それから家族は北海道に移住し、そこで信仰を持った。上の二人の兄たちは牧師で、彼女自身も十九歳で東京神田の聖書学院に入学し、山形県新庄や、神田福音館で婦人伝道師として奉仕する。一九二〇年に葛原師と結婚、翌々年に葛原師は一人留学するが、一九二三年に夫人は五人の子供たちと共に渡米する。一九三四年頃から心臓疾患のために夫人に腹水が溜まり、以来四年間、闘病生活が続く、十一回にわたる腹水排除の手術をしなければならなかった。その都度五ガロン近い腹水が出たという。葛原師は上の子供たちと看護に当たったが、看護婦の岡田秀姉(現在のロサンゼルス教会の高吉セイゴ牧師夫人チエコ師の祖母)も手伝ってくれた。岡田姉は日に夜をついで間断なく噴出す腹水の始末をしなければならず、それはまさに戦争であった。だが、その間、夫人は一言の不平等ももらさず、ただ願ったことは主の栄光が現れることであつたという。召される十日ほど前のこと、彼女はすでに死期を知つてか、九人の子供たち一人一人に聖書の言葉と、感謝と励ましの言葉を贈つた。長女の美香さんには「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となつて流れであるう」(ヨハネ七・37、38)というみ言葉であつた。夫人は一九三八年十一月に召された。ちょうど五〇回目の春秋を迎える時であり、結婚三〇年を目前にした年でもあつた。  
 その後の半世紀、葛原師は一人身であつた。師がシカゴで百歳の誕生日を迎えられた日、それまでの多忙な牧会で父としてに充分な愛を注ぐことが出来なかつた人生を振り返り、子息たちに「私を許してくれ」と頭を下げたという。師のホーリネス信仰の大輪の華が咲いたかのような一瞬であつた。それは清香夫人の天からの祈りが、そう言わせたのではないかと、ふと思つたりもした。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」  
 オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。  
 私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

